

第9回 ショートレター受賞作品一覧

小・中学生の部

《最優秀賞》

タイトル 「自ら命を絶とうとしたお母さんへ」

自ら命を絶とうとしたお母さんの事、非難なんてしていません。胸にあてると、お母さんの心の叫びが聴ける。そんな聴診器が欲しい。お母さんの心に、そっと寄り添いたいから。



《優秀賞》

タイトル 「お父さんへ」



お父さんは、私達の為に、毎晩遅くまで働いてくれているのに、休日には、遊びに連れて行ってきて、私や妹が病気になった時は、すぐに帰って来てくれるね。私は、そんなお父さんが大好きです。お父さんありがとう。

《優秀賞》

タイトル 「これからの社会へ」

いろんな障害があっても、なくても、大人も子どもも、ひとり一人が自分らしく生きていける街。やさしい緑にあふれた安全な街。大人になったらそんな街を作る人になりたい。

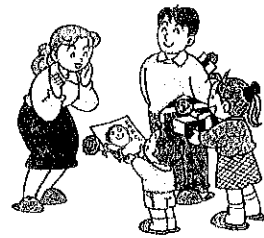
《優秀賞》

タイトル 無題

人権は大切です。人を思いやる気持ち、そして、それを大切にする心があれば、世界は平和になるのではないのでしょうか？

《佳作》

タイトル 「パパとママへ」



私が悩んでいる時や悲しい時、いつもはげましてくれたり、助けてくれたりしてありがとう。話をしたら気持ちがいつもすっきりするよ。話せるのはパパとママしかいないから。いつも話を聞いてくれてありがとう。

《佳 作》

タイトル 「おじいちゃんおつかれさま」



九州に住むおじいちゃんは、みん生委員をしていました。交代してくれる人がいなくて、十二年間続けてました。今年やっと、交代してくれる人がいました。おじいちゃん、長い間おつかれさまでした。

《佳 作》

タイトル 「おばあちゃんへ」

おばあちゃんはこのごろあちこち痛いと言っているのに家の事を全部一人でしてますね。夏休みおばあちゃんの家でお世話になるのでお手伝いをするから言って下さい。少しでもおばあちゃんを楽にしてあげたいです。

《佳 作》

タイトル 「お母さんへ」



吹部に入部して、一ヶ月たつのに私はまだなじめずにいた。でも、お母さんが「部活も勉強も精一杯がんばれ」って、母の日のお返しにくれた手紙の言葉で、元気になった。ありがとう。

《佳 作》

タイトル 「母へ」



ありがとう。伝えきれないくらいの思いがつまっている一言。今まで、ありがとう。そしてこれからもありがとう。

《入 選》

タイトル 「社会」

みんな平等な社会は、みんなの理想の世界。みんなで明るい未来をつくっていこう。

《入 選》

タイトル 「おばあちゃん」



おばあちゃん。いつも元気なおばあちゃん働き者のおばあちゃん。でも、この前手術をしてから、元気がなくなったね。でも、大丈夫。次はぼくが手になってあげる。ぼくが足になってあげるから。

《入 選》

タイトル 「お父さんへ」

仕事もこのごろ忙しそうですね。あまり無理をしないでね。休みをとったらいつも遊んでくれて、ありがとう。みんな楽しくらせてるのは、お父さんのおかげです。ありがとう。いっぱいありがとう。

《入 選》

タイトル 「大好きなおばあちゃんへ」

私は、おばあちゃんが、大好きです。理由は、いつもやさしくて、いろんな所につれていってくれるからです。けど、私が大人になっても生きているかが、心配です。だから、私が大人なるまで待っててね。

《入 選》

タイトル 「ひかる（弟）へ」

ひかるは、いつも元気いっぱいがかわいいね。テレビの子供番組を見て、いつも歌っておどって家族は大笑いです。でも、ときどき泣いてお母さんを困らしているね。でも、兄ちゃんはひかるが大好きです。



《入 選》

タイトル 「おじいちゃん、おばあちゃんへ」

おじいちゃん、おばあちゃん、いつもだらしがなくてダメダメな私を、良いところも悪いところも全部私として受け入れてくれて、ありがとう。私の話を全部聞いてくれるおじいちゃんおばあちゃん。元気でいて下さい。

《入 選》

タイトル 「おじいちゃんへ」



おじいちゃんは、ちゃんとしゃべれないけど、がんばってリハビリをしてちょっと、しゃべれるようになったね。とてもすごいです。次は、がんばって私の名前をよんでね。楽しみにしています。

《入 選》

タイトル 「おじいちゃん、おばあちゃんへ」

いつも暑い中、野菜を作ってくれたり、車で送ってくれたり、おいしいご飯を作ってくれてありがとう。つるや亀のように、いつまでも長生きしてね。

《人 選》

タイトル 「おじいちゃんおばあちゃんへ」

父、母、ぼくの身近にいる宝物そして僕がうまれてこれたのは全ておじいちゃんとおばあちゃんのおかげです。今まで様々な苦勞をかけてしまいました。(ごめんなさい。そしてありがとうございます。今後のこともありがとう。

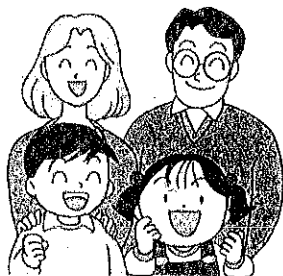


高校・一般の部

《最優秀賞》

タイトル 「お父さんへ」

大病の後遺症が残ったって、お父さんはずっと家族の宝物。
私が出して見つけてくれたとき、「お父さんは宝探しの名人なんだ」の一言。いじめって、してもされても悲しいもの、皆きっと誰かの宝物なんだと思う。



《優秀賞》

タイトル 「2才の息子へ」



妹が産まれたばかりの頃、あなたのことを「お兄ちゃん」と呼んでいましたね。ある日「ぼくは、お兄ちゃんじゃない、かずきよ」と言われて、はっとしたよ。これからは、たくさん、たくさん、名前呼ぶからね。

《優秀賞》

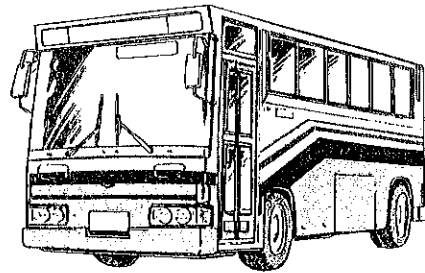
タイトル 「息子へ」

小学校の陸上大会で、君が高跳びの決勝に残ったとき私は、他校の子が失敗してくれたら…と思った。でもその子がバーをクリアした瞬間、君は両手を空につき上げ一緒に成功を喜んだね。君の笑顔に負けてしまったよ。

《優秀賞》

タイトル 「地域循環バス」

久々に乗ったバス。埋まっている席から、妊婦の私に「どうぞ」と、がっしりした高校生。次のバス停で、老夫婦が乗ってくると、すぐに彼の友達が席を譲る。地域を循環するバスは、人のぬくもりもゆっくり運んでいる。



《佳 作》

タイトル 無題



頭のかしこさよりも何よりもあなたが車いすのおばあちゃんをおして散歩につれていくというその行動が何よりもママにとって、自慢できる娘なんです。そのやさしい気持ちは大人になっていくのに宝物だと思うよ。

《佳 作》

タイトル 「インドで出会ったおじさんへ」

旅先で途方に暮れた時に、現地の人に助けもらった。日本に帰ってどうにか恩返ししますと言うと「周囲の人に親切にしてあげて下さい、それが恩返しです」と言われた。それからインドの親切の輪が広がっていますよ。

《佳 作》

タイトル 「母へ」

年にとって体も弱ってしまった母さん。母さんは私が生まれた時からずっと一緒だった。どんな時も私を助けてくれたよね。今度は私が母さんを助ける番。心配しないで。どんな時もずっと一緒だよ。

《佳 作》

タイトル 「母へ」

「いやっ、こんなもん買うてったん」覚えてますが、あなたが七歳の私に投げつけた言葉を。店員さんが丁寧にリボンをかけてくれた母の日の百円の贈り物を。あなたのような大人になったらあかんと教えてくれた事を。

《佳 作》



タイトル 「社会に向けて」

やってない、そう訴え続けて6年1月私は拘留された。冤罪は社会の関心が低いけれど、そこに巻き込まれた人にとっては地獄。冤罪は不幸の連鎖を生み、真相を見えなくする。無罪判決を勝ち得ても亡年月は戻らない。

《入 選》

タイトル 「母さんへ」

子供の頃から記憶力が良かった僕は、これまでに母さんから受けた愛をたくさん記憶しています。でも、たぶん、僕が記憶しているその何十倍もの愛を与えてくれた事も、知っています。

《入 選》

タイトル 「介護実習で出会ったお婆さんへ」



まだホームヘルパーの資格すら取っていない僕に、「先生、先生」と言いながら、ぎゅっと手を握ってくれましたね。そのひんやりとした手が、僕の心に温かく伝わりました。立派なヘルパーになれるよう、頑張ります。

《入 選》

タイトル 「おばあちゃんへ」

本音を言うと、介護という漠然とした不安に押し潰されそうでした。でも、一緒に過ごせたかけがえのない時間。とても、幸せでした。最期に、家族みんなにお礼を言ってくれましたね。今、その言葉が生きる支えです。

《入 選》

タイトル 「子供たちへ」

他人の欠点をばかにすること、それは犯罪と同じくらい悪いことなんだ。言葉はその時だけではなく「ぬけないトゲ」のようにその人を苦しめ続けるんだ。だから、決して他人の欠点をばかにしてはいけないよ。

《入 選》

タイトル 「社会へ」

犯罪の背景には必ずといっていいほど「不幸」があります。加害者も実は運命の被害者なのです。あなたが、その犯罪に関係していないのなら、事情も全く知らないのに安易に非難したり、軽蔑するのは止めてください。

《入 選》

タイトル 「問題を抱える子供に悩む親御さんへ」



正論を言う前にまず子供と向き合って下さい。大人の尺度で判断したり、自分も苦しいからといって、蔑ろにしないで下さい。その子にしか分からない切実な苦しみがあります。どうかその苦しみを聞いてあげて下さい。

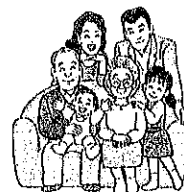
《入 選》

タイトル 「お父さんへ」

自営業である理由、知らなかったんだ。「帰ってきたら“ただいま”を言える相手が必要だ」って。大人になった今ならわかるよ。それがいかに大切で、けど大変なことか。私はあなたを誇りに思う。

《入 選》

タイトル 「お母さんへ」



家族団欒時、おばあちゃんは一人遅れて笑っているね。何か、とっても楽しそう…。そのおばあちゃん的笑顔をみて私たちも、又、笑っているんだよ…。

《入 選》

タイトル 「虐待する親へ…」

幼い子供を虐待する身勝手極まりない親に怒りを覚える。幼い命は苦しむためだけに生まれてきたのではない。子供の幸せを第一に考えるのが親の姿である。虐待は親による子供への最大の人権侵害である。

《入 選》

タイトル 「弟へ」

君が亡くなって、もう8年経ちますね。私はもう20歳です。手足も言語すらも持っていなかった君は、それでも周りに笑顔をふりまいていましたね。その大切さが段々と分かって来る毎日です。笑顔は誰にでも大切です

《入 選》

タイトル 「一般の人たちへ」

あなたなら、どんな態度をとるでしょうか。自分の大事な人が、体が不自由になったことを想像してみてください。目をそらしますか。近寄りませんか。もう「知らない人」と割り切りますか。

《入 選》

タイトル 「思い遣る心」



みんな生まれた時は、あんなにキラキラと輝いていたでないですか。何時も相手の立場に立って「もし私なら」の思いを胸に、誰にも何にも“思い遣り”だけは持ち続けましょう。人って弱いものなのです。

《入 選》

タイトル 「社会に向けて」

幼い子どもたちに「絆」「思いやり」「いたわり」を言葉で教えるのって難しいよね。心で感じさせてあげられるように、まずは私たち大人がそんな心を持って、子どもと接していかなくちゃいけないんだね。

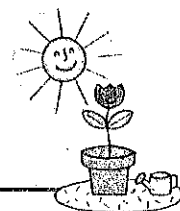
《入 選》

タイトル 「小学校の時のクラスメートへ」

クラスで仲間外れにされてしまった私にいつもニコニコ接してくれた知的障害のあるジュンちゃん。あなたはクラスで一番優しい心の持ち主でした。私はあの時心から、あなたには一生敵わないな、と思いました。

《入 選》

タイトル 無題



あんたも親になったらわかる、とよく言われたね。親にならなかったけど、親のありがたさは年々身にしみてきます。もう何を言われてもお母さんの勝ち。産み育ててくれたお母さんにありがとうしか言えません。

《入 選》

タイトル 「未来の僕らと若者達へ」

堂々と老いたい。胸はって、若い奴らに面倒をかけた。わからん。できん。助けてくれ。いつでもどこでもそう言えていつでもどこでも笑顔で手がさしのべられる。そういう社会を作りたい。そういう社会に生きていたい。

《入 選》

タイトル 「母さんへ」



「こんなごつごつした手に指輪は似合わないよ」と左手の薬指をさみしそうに見つめていた母さん。僕には見えるよ、家族という名の宝石が薬指にくい込んで、ダイヤよりプラチナよりもまぶしいくらいに輝いてるよ。

《入 選》

タイトル 「母ちゃんへ」

「どうせ僕なんか…」。五人姉弟の僕は、子供の頃いつもすねていた。ある日、五本の指を広げて母ちゃんは言ったよね。「どの指がいらん指ね？どの指もみんな大事かと」三人娘を持った今その言葉が心にしみる。

《入 選》

タイトル 「金子みすずさんへ」

「いってきます！」元気よく玄関を飛び出した娘の背中には、水色のランドセル。迎えに来たお友だちは、ローズピンクのランドセル。「みんな違って みんないい」あなたの言葉を、子どもたちはちゃんと知っています。

《入 選》

タイトル 「音訳ボランティアのOさんへ」

リクエストに応じて吹き込んで下さった音訳図書を聴く時、あなたが私を優しく包んでくださるのも聴いています。心を送ってくれる人がいるから、生きる勇気が生まれます。

《入 選》

タイトル 「すべての暴力に」

0.4秒、待ってください。0.4秒、その手をそこで、その位置で、止めてください。

まばたきの、その一瞬で、あなたはかわれます。

